



# Bangladesh Report 2018年12月

項	目次
1	ノート、用語集、リスク表
2	Bangladesh 国内のニュース
3	ロヒンギャ難民の危機状況
4	各セクターのギャップと制約

### 用語集

AL	Bangladesh アワミ連盟
BNP	Bangladesh 民族主義党
GBV	ジェンダーに基づく暴力
ISCG	部門間調整グループ
IOM	国際移住機関
UNHCR	国連難民高等弁務事務所
WASH	水衛生

この文書は、ジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

以下文書内で“コメント…”とイタリック体で記載され、後述の文章もイタリック体で記載されている場合、筆者の意見を述べており、事実ではないことがあります。

免責事項：この文書の目的は、情報を分析し、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

ロケーション	リスクレベル	コメント	フォーキャスト
Cox Bazarを含む Bangladesh 全般	中	通常、 Bangladesh のリスクレベルは低いですが、レポートの期間、議会選挙に至るまでの間に政治的抗議行動や同盟休業が行われ、相当な混乱状況と暴力が発生している。Cox Bazar は暴力の影響を受けてはいませんが、選挙期間は社会不安が醸成され、Dhaka を通じた移動の必要と JPF の同国におけるインフラの不足が Bangladesh 国内におけるリスクレベルを中程度に押し上げる。	暴力的な抗議活動や同盟休業は選挙が終わっても恐らく収まらないであろう。選挙結果に伴い同等の暴力的行動が発生することが予想される。

## 1. バングラデシュ国内のニュース

### 議会選挙

2018年12月30日、バングラデシュで11回目の議会選挙が開催される。首相である Sheikh Hasina 氏は連続3期目を狙っているが、人権侵害、独裁体制、政敵の逮捕やメディアの自由を規制するなどと言った点において強く非難されている。Hashina 氏が率いる政府が勝利を確実にするために、選挙は公平でなく、お金がかかるものとしての申し立てに直面している。首相が率いるアワミ連盟 (AL) は13の小規模政党と組み、一つの大きな連盟を組んでいる。

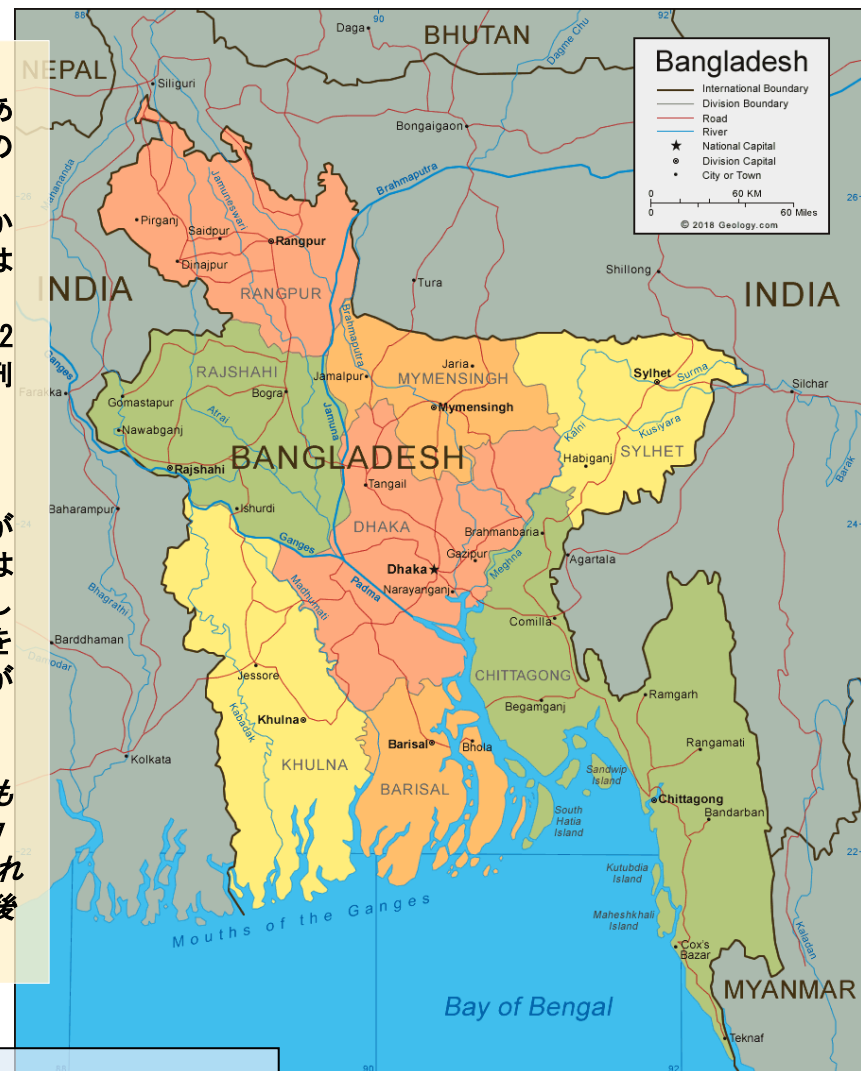
最大野党はバングラデシュ民族主義党 (BNP) であるが、BNP のリーダーであり、2期前の首相を務めた Khaleda Zia 氏は、汚職容疑で有罪判決を受けており、現在刑務所に収容されているために選挙結果に異議を唱えることが禁止されている。

BNP は、前首相 Dr Kamal Hossain 氏が率いる Jatiya Oikya 前線 (国民統一前線) を構成する3つの政党と連盟を組んでいる。

選挙準備期間には、警察と反対陣営の支持者間で暴力を含む衝突が国内全土へ広がっていた。バングラデシュでは、選挙戦後でこうした暴力的衝突が発生することは珍しくない。様々な情報が報道されているが、少なくとも暴動により6名が死亡している。BNP は、野党候補者300名のうち、約半分が選挙期間中に攻撃を受けたを主張している。また先月には12名以上の有力候補者を含む、11,500名もの党員が拘束されている。

米国は、ビザの発行が遅れていることを理由に、監視団への出資を打ち切った。

コメント: この選挙は弾圧的な政治環境下で行われていることは疑いようがない。もしALが勝利すれば、選挙の結果が信用できるものであったとしても、政府の圧政的政策は国の民主的信用を再構築できないであろう。2014年の選挙は非民主的に行われたことに対して国際的に非難を浴びた。どの陣営が勝利を収めようと、暴動は選挙後も発生するだろう。



### バングラデシュにおける薬物犯罪

現在急増している社会的問題として、薬物使用と警察の厳しい対応がある。バングラデシュには推定700万人の薬物依存者がおり、うち45%がミャンマーの研究所から密輸されたメタンフェタミンの一種である、ヤーバーに依存している。9000人以上の逮捕者に対して警察は暴力的に扱っており、うち100名以上は殺害された。報道によると2018年5月、特別警察部隊は120名以上の人を殺害したとされる。一方で、殺害は超法規的であるという主張が増加しており、そのうち一部は、反対陣営の支持者であるという政治的動機に殺害に加わっているという。

## 2. ロヒンギャ難民の危機状況

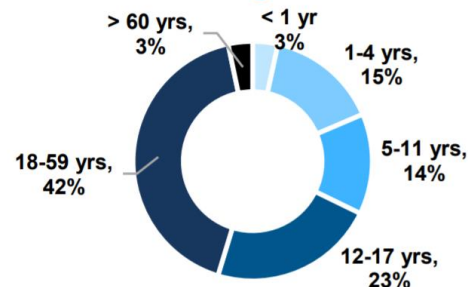
### 共同対応計画と資金調達

バングラデシュのCoxBazarでは国連難民高等弁務事務所（UNHCR）と国際移住機関（IOM）によって主導されている部門間調整グループの人的対応が調整されている。現状および増加するニーズに対して、共同対応計画が2018年3月16日に立ち上げられ、本レスポンスプランには、ミャンマーからバングラデシュや現地受け入れコミュニティに避難したロヒンギャ難民を含む、130万人の人命救助活動を提供するために、9億5100万米ドルを要求した。11月19日時点、本呼びかけの71%の資金調達が完了している。

### 2018年難民流入状況

バングラデシュには未だロヒンギャ難民が避難しており、2017年終盤にあった初期の流入と比較するとその数はかなり少ない。2018年1月1日から11月15日まで、14,922人が新規でバングラデシュへ到着したと伝えられている。（情報ソース：UNHCR）

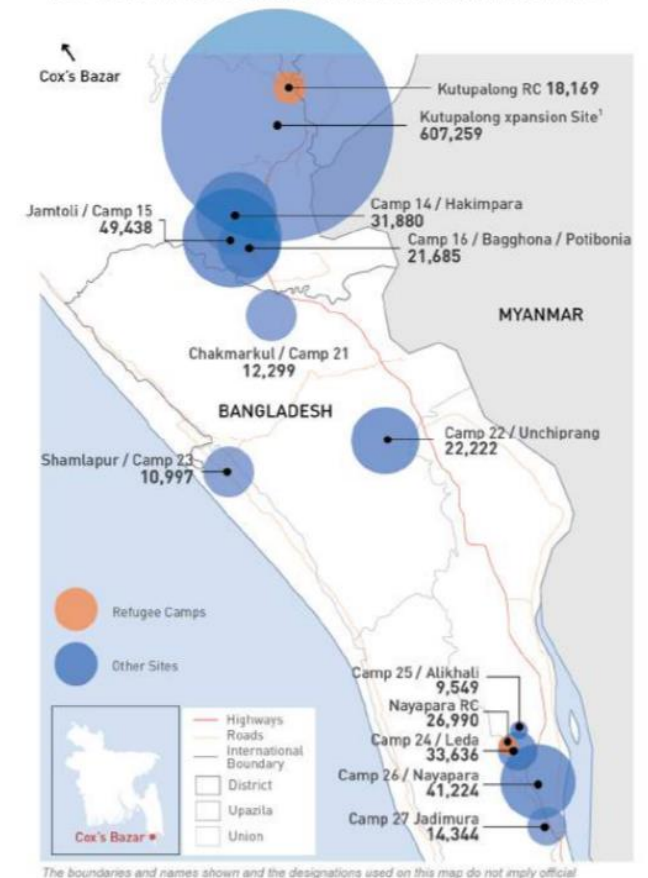
### Age breakdown of refugees in Cox's Bazar



### Rohingya refugees estimated by location as of 28 Nov 2018 (source: FCN & NPM)

Location	Total Population
<b>Refugees in Camps and Settlements</b>	
Kutupalong Expansion Site <sup>1</sup>	607,259
Kutupalong RC	18,169
Camp 14, 15, 16	103,003
Camp 21 (Chakmarkul)	12,299
Camp 22 (Unchiprang)	22,222
Camp 23 (Shamlapur)	10,977
Camp 24 (Leda)	33,636
Camp 25 (Ali Khali)	9,549
Camp 26 (Nayapara)	41,224
Camp 27 (Jadimura)	14,344
Nayapara RC	26,990
<b>Sub Total</b>	<b>899,672</b>
<b>Refugees in Host Communities</b>	
Teknaf	4,650
Ukhia	2,513
<b>Sub Total</b>	<b>7,163</b>
<b>TOTAL Rohingya</b>	<b>906,835</b>

### REFUGEE SITES BY POPULATION AND LOCATION TYPE



### ロヒンギャ難民の本国送還

2018年10月、バングラデシュ政府とミャンマー政府は、2018年11月に1000名以上いる難民のうち、100名以上のロヒンギャムスリム教徒を本国送還する合意をした。しかしながら、UNHCRはRakhine県における状況は「未だ帰還できる準備が整っていない」として、帰還は自主的に名乗り出た者を対象にすべきだと強調した。大規模に無国籍であるロヒンギャコミュニティのリーダー達は、様々な要求が満たされない限り帰還はないとし、要求事項にはミャンマーの市民権の獲得も含まれている。しかし11月中旬、バングラデシュ政府は、CoxBazarにおける多くのロヒンギャムスリム難民が抗議活動を実施したことを受け、当初予定していた2,200名のロヒンギャ難民の送還を中止した。コメント：今後本国送還をめぐり、再度実施されるかどうかは不明である。

## 各セクターのギャップと制約

情報ソース：部門間調整グループ ISCG シチュエーションレポートロヒンギャ難民クライシス 2018 年 11 月 29 日（調査期間 11 月 13 - 26 日）

[https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/iscg\\_situation\\_report\\_29\\_nov.pdf](https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/iscg_situation_report_29_nov.pdf)

### 教育

キャンプ内の年齢 3-14 才、推定 100,243 人の就学前及び初等教育過程の子供たちの格差が存在する。

15 から 24 才までの若者に対する教育が十分に提供されていないことが主要な懸念事項である。たった 3,756 人の若者が教育や職業訓練を受けられており、残りおよそ 11,7000 人が受けることができていない。

1,865 ある教育施設のうち、たった 739 施設のみが子供たちが利用できる WASH（水衛生）施設を保有している。

キャンプ内で質の高い教育を提供するためには以下の制限事項がある：

- ・ キャンプないの場所が限られている
- ・ 標準化された学習の枠組みの不足
- ・ 要件を満たした教師採用の難航

### 健康

・ 本セクターの資金不足は深刻な問題である。資金不足は保健健康施設の総数には影響しないものの、それぞれの提供するサービスの質に影響を及ぼす。

・ 保健サービス分野で以下の施設が非常に不足しています：手術施設、24 時間利用可能な施設、精神科および臨床心理学のスペシャリスト

・ 主要な野戦病院の一つが 2018 年中に閉まる予定で、本廃業により手術実施に格差が生まれる。

・ 国際的医療スタッフが夜間はキャンプ内に留まらなければいけないという制約から、特に手術の実施可能時間が限定される。

・ キャンプにおける人口をカバーできる保健健康施設はニーズに対応するだけの数は存在するが、ギャップ分析によれば、全キャンプで施設がある場所にかなりの偏りがあるという。高い人口密度のキャンプでは土地の大きさの制約から多くの施設を置くことは難しい。

・ このセクターではこれら健康保健サービスを特定するシステムが現在存在しないため、受け入れコミュニティメンバーのうちどの程度保健サービスを受けているかという具体的な情報が不足している。

### WASH（水衛生）

・ 固形廃棄物処理や取り扱い局在的でいくつの箇所では土地と技術的制約のために無秩序の場合もある。

・ 家庭内で私的用入浴施設を建設する家族が増えている。

・ 使われなくなった施設の再利用と土地活用は未だ課題として残る。

・ いくつかの特殊 WASH 備品の免税や税関手続きが水質テストをするための野外研究所を遅らせた。

### 食糧の確保

・ 総人口のたった 15.9%だけが、一般的な食料の流通に加えて、紙の引換券を通じて新鮮な食料といった食の多様化の支援を受けられている。多くの家庭へ支援を行き届かせるため、この食料介在の規模をスケールアップしなければならない。

・ 食料保全の大幅な資金不足は、難民の多様な食事と、難民の流入により最も脆弱となった受け入れコミュニティと難民双方の生活基盤づくりの拡大へ大きな影響を与えている。

・ 土地買収は電子パウチャー取り扱い店の建設における大きな課題の一つだ。

### 栄養

・ 本セクターの 37%は未だ資金不足である。

・ 各施設のネットワークは、その有効性と未払い案件のフォローアップのために再構築が必要である。

・ 土地の制約が再構築に向けての大きな課題となっている。

### 保護活動

- ・ 保護活動の 52%が現在資金不足である。
- ・ 既存の法律が住居地以外への移動の自由、身分証明書、教育、といった難民の基本的権利を制限している。
- ・ 都市開発に多目的コミュニティーセンターやレクリエーションエリアが含まれるべきである。
- ・ 女性や若い女の子向けの基本的サービスや自立の機会が特に不足している。
- ・ 人身売買対策やメンタルヘルスサービス専用のリソースが不足している。
- ・ 政府の人道援助団体登録プロセスが長期に渡ったことにより、新たな団体の活動や既存活動している団体の支援拡大を阻害している。

### 子供の保護

- ・ 人身売買、子供の強制労働や強制結婚といったリスクに晒されている若者向けの総合的なプログラム（教育や生活手段）が資金不足にある。
- ・ 子供へ優しい施設の、若年層の女の子や男の子の参加が限られている。一部の子供たちは、彼らの保護者が参加を妨げられているからだ。
- ・ 子供や若年層の青少年達が保護を受けられる施設への土地配分は優先的に行われるべきだ。

### ジェンダーに基づく暴力 (GBV)

- ・ 全エリアを網羅するために少なくとも追加で 115 の GBV 案件を管理する対策拠点が必要だ。
- ・ 受け入れコミュニティに対して GBV 対策拠点を拡大は必須である。
- ・ いくつかの GBV 対策拠点は台風による洪水や地滑りの影響を受けている可能性がある。
- ・ 代替の対策拠点やモバイルサービスを通じて、生存者のための命を救う GBV 対策は今後も確実に継続して提供されるようにしなければならない。
- ・ GBV や子供の保護を提供するための安全な土地の配分は優先されるべきだ。

### シェルターと非食料備品

- 適切な土地が十分ないことが、キャンプを撤去し、シェルターを建設するに当たっての包括的な課題となっている。具体的には
  - ・ 範囲の最低限の基準を満たす
  - ・ 変化する気候に対応できる
  - ・ 女性や子供の保護に十分で場所であること
- シェルターへもアップグレードは、資金や NGO へのプロジェクト承認の遅延、供給網が課題となり、阻害されることが多い。

### 施設の支援

- ・ 特に Kutupalong-Balukhali 拡張キャンプの過密、混雑は深刻な問題だ。
- ・ 資金不足は、認知されている多くのニーズの充足や援助を阻害している。特に道路建設とあった重要なインフラ建設が遅れている。